

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年12月22日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671500090
法人名	医療法人 一桜会
事業所名	さくらのお家よしだ
所在地	鹿児島県鹿児島市東佐多町269-2 (電話) 099-245-5500
自己評価作成日	平成27年11月30日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様がお自分のペースで日々健やかに生活して頂けるよう日々努めております。特に力を入れている点ですが、季節を感じての生活を送って頂けるように努め、季節に応じた活動を利用者様にも勿論参加して頂き行っております。たとえば、梅干し作り・花見・節句・七夕飾り・お節作り・敬老会・クリスマス会等など・・・昔から継承されている行事ごとを大切にしております。これらの事が生活の中で自然な事として表出され、利用者の方々に嬉々とした表情で参加して下さいしております。それに加え、当ホームは庭がとても広くて、その事がアピールできます。広い庭でお茶会や、ご家族や地域の方々と夕涼み会など、ホーム内とは又違った雰囲気を楽しんで頂いております。クリスマスの時期には、イルミネーションを建物外部全体に飾りつけて地域の方々にも楽しんで頂いています。利用者の方も好きな時に散歩等出来るように努めております。また当ホームは景色がとても良く、利用者の社交場であるリビングのソファから居ながらにして見える窓からの風景は、田んぼの様子だけでも四季を感じる事が出来ます。(春にはれんげの花・田植え・青く育つ稲・黄色に色づく稲穂)季節の話題には事欠きません。利用者みなさんが、ユニット名のごとく、ゆったり、のんびりと過ごして頂けるようにスタッフ自身も生活の中の一環境と自覚し、支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鹿児島市北部郊外、自然環境に恵まれたのどかな集落に立地しホーム周辺は四季を感じながらの散歩コースに最適な環境である。
 法人は母体である医療機関の他に通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所・グループホーム・小規模多機能ホームを運営しており、地域の医療と高齢者福祉の一端を担っている。利用者の健康管理も定期的な主治医の訪問診療と週3回看護師の訪問があり、職員や本人及び家族の安心に繋がっている。
 法人内の異動はあるが職員の定着率は良く働きながら学ぶ環境やスキルアップ向上のための研修など職員の意識向上が図られ、現在介護福祉士12名・ケアマネージャー2名・准看護師2名とほとんどの職員が有資格者で知識と経験の豊富な職員が多数確保されている。
 利用者の高齢化に伴う重度化は現実のものとして受け止めなかなかできることが少なくなっているが利用者の思いや望んでいることなどをくみ取り利用者主体のケアに取り組んでいる。
 ホーム内は穏やかでやさしい雰囲気が漂いユニットの名称にもなっている「のんびり」「ゆったり」のグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	基本理念は常に念頭に置き地域活動として、福祉フェスタ参加や要請があれば地域のサロンに参加し実践につとめている。	基本理念に「いきいきと日々健やかに、楽しい暮らし」を掲げ、サブテーマに「住み慣れた地域で文化的な生活」として事業所と地域との関係性を重視した理念を作成している。理念は玄関・事務所・リビングに掲示してパンフレット・重要事項説明書にも明記している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方との日常での挨拶はもちろんの事、幼稚園の運動会や鬼火焚きなど地域の行事にお誘いを頂いたり、当ホームの夕涼み会にも参加を頂いている。	近隣の幼稚園・小学校の運動会、中学校の卒業式、地域行事の鬼火焚き見学などに出かけて地域住民との交流が行われている。また、中学生の職場体験実習・ボランティアの受け入れも行っている。管理者が地域サロンで認知症についての講話も行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	吉田地域の地域密着型サービス事業所で「ひっちこ会」という連絡協議会を立ち上げ、地域貢献の為に活動中である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回の会議の中で地域の方や長寿安心相談センターの職員、消防署、民生委員、ご家族よりご意見を頂きサービス向上に活かしている。	民生委員・幼稚園長・消防分団長・家族・行政等の参加で2ヶ月に1回開催している。議事録は玄関に置いて来訪者が閲覧できるように配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿安心相談センターとは常に連携体制をとり情報共有に努めている。年一回は介護相談員の訪問もあり意見を頂いている。	毎回、運営推進会議に長寿安心センター職員の参加があり、ホームの実情や取り組みを伝えている。また、吉田地区地域密着型サービス連絡協議会主催の認知症サポーター養成講座や徘徊模擬訓練への協力も行っている。毎年、介護相談員の訪問もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員として毎月委員会に出席し身体拘束をしないケアについて情報交換や勉強をしている。委員からスタッフへ伝達を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体で身体拘束廃止委員会が設置されて定期的な勉強会が行われている。また、毎月のミーティング時や日常の業務でも疑問が生じたら話し合いの機会を設けている。日中は玄関の施錠はせずに外出する利用者には職員間の連携と見守りで安全で自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会にて虐待防止について話し合う機会を持ちスタッフが虐待防止について意識を持てるよう努めている。法人研修や外部研修に参加し虐待防止について学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や青年後見制度の機会はない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定の際は口頭で文面の内容説明を行い不安や疑問点を軽減出来る様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等で意見や要望を述べる機会を作り、要望をお聞きし運営に反映させている。面会時など話しやすい環境作りにも努めている。	日常の面会時・電話連絡時・運営推進会議・家族会等で家族からは意見・要望を聞き出すように努めている。また、第三者委員も設置して外部者にも表せる機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の主任会やミーティング等で職員の意見を述べる場を設け反映させている。	毎月全職員参加のミーティングを行って職員の意見・提案を話し合っている。特にミーティングで話し合ってもらいたい事案についてはあらかじめミーティングノートに書き出してもらっている。法人全体で介護スキルアップ向上(資格取得含む)についての支援も行われて職員の意識向上を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>人事考課制度があり面接などを行い個々の努力や実績など把握出来る様に努めている。各自が向上心を持って業務に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で基礎研修、専門研修が年間計画で設けられている。外部研修等を受ける機会も設けられている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>代表者自体は自ら指示はないがスタッフ独自で交流を図り事後報告する事で、代表者は受容し称賛してくださる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人との面会を通じ本人の希望に耳を傾け安心した生活を確保できる体制作りに努めている ご本人の要望が出しやすくなる様に環境作りに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との信頼関係作りが利用開始に必要な不可欠な事と認識しており、納得して頂けるようコミュニケーション作りに努めている。ご家族もサポートして頂けるよう来訪時は話のしやすい雰囲気作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に出来る限り、ご本人ご家族のニーズを把握出来る様に関係部署との連携に努め情報収集を行いご本人、ご家族との面談に活かしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日々の暮らしの中で、その方の出来る事を把握し、自然な形での関わりで、対話に努めその方らしさが発揮出来る様に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人誕生会や行事等で一緒に過ごせる時間を作っている。また外出、外泊出来る様に家族と連携を大切に、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人、親戚、馴染みの方などが面会に気軽に来れる環境作りに努め、馴染みの場所や人を把握するようにスタッフは情報の共有に努めている。	入居前からの美容室の利用継続や地域出身の利用者は可能な限り地域行事見学や一時帰宅など家族の協力をもらいながら馴染みの関係継続の支援に努めている。また、友人・知人の来訪も多く訪ねやすい雰囲気作りに配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、常に利用者間の関係を把握し、トラブルを未然に防ぐ努力をして、コミュニケーションのサポートを行いお互いが楽しく生活出来る様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、相談等があった時は対応する準備がある。（再入居等）		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中や個別で接する時間の中で自然な会話の流れで思いや願いを表出できる環境を作り自己決定に向けた支援に努めている。	利用者との会話や関わり、表情やしぐさ、家族や関係者からの情報等から本人・本位に検討して思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人との会話の中で生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方や生活のリズムや体調の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフによるカンファレンス及びモニタリングを行い、家族との連携を図りながらご本人が生活しやすい様に介護計画に活かしている	利用者ごとの担当性はあるが、アセスメント・モニタリングについてはカンファレンスやケース会議、職員会議で話し合い、本人・家族の意向や思いを聞いて現状に即した介護計画を作成している。必要に応じて見直しを行い、変化がなくても定期的に見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づき等は、業務日誌や個別ケア記録に記入している。スタッフ間の情報共有、ケアプランの見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズには、対応しているが、多機能化出来ているとは言えない。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	吉田文化祭に作品出展したり、地域の鬼火焚き参加等地域の方々と交流、またその事を話題に取り入れるなど豊かな暮らしに繋げている。また地域住民の方々との交流の場として夕涼み会の参加の声かけも行っている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの利用者の方がかかりつけ医をお持ちでスタッフは医師との連携を図りながら適切な医療を受けられる様支援している。（全員月2回の往診有り）	本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。法人の医療機関とは24時間体制で協力関係が築かれており往診や看護師の訪問など家族の安心にも繋がっている。他科受診についても本人家族の状況に応じてホームでも受診同行している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝の状態報告週3回の医療連携体制により適切に支援を受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は速やかにホームでの生活状況を情報提供し、他職種との連携を図り安心した入院生活が出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で重要事項説明書の中で重度化に対する指針、看取りに関する指針を説明し、その時には十分な話し合いが必要であることを説明している。 (見直し中である)	「重度化対応に係る指針」と「看取り指針」を作成して重要事項説明書にて説明の上、同意をもらっている。入居後は利用者の状況変化に伴い主治医の判断のもと家族と方向性を共有して本人・家族の希望に沿ったホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生、急変に備え基本的な流れはマニュアル化する事で戸惑う事がないようにしているが、定期的な訓練は行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成している。地域の方より緊急避難場所としての協力を頂いている。	避難訓練は年2回消防署立会のもと昼夜間想定で行っている。水害時の避難場所として近所の工場と協力の話し合いも行われている。スプリンクラーは設置されて備蓄も確保されている。また、運営推進委員に地元消防分団の方もおり、消防分団との協力体制も築かれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し言葉かけ等、その人のプライドを損ねないよう言葉かけに配慮している。	法人全体で毎年定期的な研修が行われている。特に排泄、入浴時には羞恥心やプライバシーに配慮したケアを心がけている。また、居室に入る際も必ず声かけをして本人の許可を得てから入室するように心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の援助の中でコミュニケーションをとり希望が自然と出てくるように声かけや、傾聴に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりが出来る範囲で自分の生活を段取りそのペースが保てるように援助している。100%ではないが、その方らしく生活が出る様に努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	更衣時はその方の意向に沿ったもの出来る様に声かけしている。必要時は移動美容室の利用も行っている。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえや、台拭き、片付け、洗濯等、できる事は参加頂いている。本人の好きな食べ物をご家族に相談し少しでも食欲のわく様なメニュー、調理法など検討している。	献立は法人の管理栄養士の指導のもと栄養バランスのいい家庭的な食事を提供している。食事の下ごしらえなどできることは手伝ってもらい、らっきょう漬けや梅干作りなどもアドバイスをもらいながら職員と共に行っている。行事食やお弁当持参の花見、気候のいい時期は庭でお茶を飲んだりと趣向を凝らしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を記録しスタッフ間で情報を共有している不足がある時は代替えを準備し補えるように援助している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけにて一緒に洗面所に立ち口腔ケアを援助している。その方に必要な口腔ケア用品を準備している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	プライバシーを大切に状況に合わせてトイレ誘導を行いトイレでの排泄を援助している。	個々の排泄チェック表を作成して健康管理と排泄パターンの把握を行っている。日中は健康状態に問題がない限り全員トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な水分摂取、運動、食事形態の工夫を個々に応じて支援している。必要時は主治医に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりの希望やタイミングを出来るだけ合わせて入浴を楽しむことが出来る様に援助している。また体調がすぐれない方へは、清拭を行うなど身体清潔の保持に努めている。	週5日を入浴日として支援している。入浴をためらう利用者には声掛けの工夫とタイミングで無理なくスムーズに入浴してもらえるように支援している。家族が温泉に連れて行く利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングのソファや、居室などご自分の体調や気分に合わせて過ごしたい所で、自由にその日を過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状の変化に配慮し主治医との連携を密に服薬の支援に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者さんのその日の体調に合わせて季節感を感じれるように、散歩、グランドゴルフ、ドライブ、ピクニック、又、花植え、畑作りなど手伝って頂いたり、気分転換の支援にとめている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>入居者様の希望も聞き季節ごとにドライブやピクニック、自宅訪問など行っている。ご家族で出かけられることもある。</p>	<p>日常的にはホーム周辺の散歩や庭での外気浴、ドライブなどで気分転換を図りホームに閉じこもらない生活を支援している。また、初詣、花見、地域行事見学等にも出かけている。家族の協力のもと外泊・外食・温泉に出かける利用者もいる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を使う事は普通の事とスタッフは捉えている。使用時は家族と連携の中でお金を使えるように支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話をかけたいと希望があればその都度対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画や、季節の花を飾り季節感を感じてもらっている。居室、リビング、廊下など照明の調整、テレビの音量、空調に配慮している。入居者様からの要望にも応えられる様に努めている。	共用空間は広々として開放感があり食事のダイニングとテレビとソファの置かれたくつろぎのリビングに分かれてメリハリのある生活が送れるように配慮されている。台所もオープンで食事の準備の光景やにおいなどは生活感を与えてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ダイニングにご自分の決められた場所があり、思い思いに過ごして頂いている。となりのユニットにお互い自由に行き来できる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の使い慣れた物を居室に持ってきて頂いている。写真を飾ったり、明るい居室作りに努めている。本人様の動きやすい配置に配慮している。	基本は居室に備え付けはなく利用者に使い慣れた家具等を持ち込んでもらっている。布団・テレビ・タンス・ラジオ・お位牌・家族の写真・お気に入りの飾り物などが持ち込まれ畳敷きで自宅と変わらない雰囲気のある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの行動の状況に合わせて安全な物品配置等に配慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない